Publication: BCN (Business Computer News -Japan) Date**:** 2007/11/5
Subject: MSF--Urges Carriers and Telecommunications Providers to Collaborate

BCN
BUSINESS COMPUTER NEWS

BCN特報

ワールドワイドの通信事業者をはじめネットワーク機器メーカーやNiceなどのベンダーが参加する団体「マルチ・サービス・フォーラム（MSF）」は、世界各国の組でも次世代通信網を利用できる環境作りに力を入れている。その一環として、通信事業者による次世代通信網の敷設で連携を促進するほか、相互互換性のテストを実施する予定だ。2008年には、米国と英国、日本、韓国の4か国が参加した通信事業者のグローバル相互実験で好成果をもたらした。実際の利用に向け着々と取り組みを進めている。

MSF、通信事業者の連携を促す

互換性ある次世代通信網の敷設へ

MSFが実施する相互互換性のテスト

検証テストの実施へ
これまでの課題を解決

MSFでは、次世代通信網のコンポーネントとインターフェースに関する検証を行っている。米ニューハンプシャー州大学に相互互換性テストを委託、今年10月にはパイロットテストを実施した。本格的なテストは2008年1～3月を予定している。

テストでの検証事項は、モバイルスイッチング

の検証に大きな成果が出れば移動体通信事業者や中心に、その仕組みを公開する計画だ。

また、この成果をもとにワールドワイドの通信事業者に対してフィールドトライアルの参加を呼びかけ、相互検証実験「GMI2008」を実施する。08年から始まって08年では相互を通えるこの実験では、音声や映像をはじめ、ネットワーク管理やロケーション管理、アプリケーション、インターコネクト、QoS（通信品質）の検証技術、IPTV、IMS（IPマルチメディア

イーサネットが欠かせない」と話すのは、メトロイーサネット関連機器の標準化を進める団体「メトロ・イーサネット・フォーラム（MEF）」のテン・チェン代表。ネットワーク関連メーカーによるサービスプロバイダへの最適な製品開発が必須としたうえで、「通信事業者それぞれが稼動する次世代通信網が互換性を持たなければならない」としている。異数のサービスプロバイダ通信網をつなげるため、「ENNI（エクステーナル・ネットワーク・ネットワーク・インターフェース）と呼ばれる規格を開発しており、MEF仕様が基に対して国際的に基づいた製品開発を進めている。EMS（国際）で「数社以上のサービスプロバイダを連携させたといったテストケースもある。標準を共に、互換性を高めていく」（チェン代表）としている。

通信事業者向けビジネスを手がけるハードメーカーにとっては、次世代通信網に合わせた製品開発が成長のカギになる。加えて、通信事業者間の互換性が高くなれば、他地域向け

携帯電話から通話やデータ送受信を行い、一般の電話回線であるPSTN（公衆交換電話網）やPLMN（公衆陸上移動網）などとの互換性があるかどうかを調べる。これが実現されれば、公衆電話からでもIP経由で通話できるようになるという。携帯電話と一般電話の連絡料金を大幅に削減することが可能で、ユーザーにとってはこれなメリットだ。MSFでは、こ

を行うプログラムに関して、メーカーから次世代通信網の製品開発を迅速に行えるよう評価を得ている。まずは技術検証で成果を出すことが重要と判断した」としている。

前回の実験「GMI2006」では、64回の連絡が行なった。それは、1QoSのシステム構成が業界内で一致した導入がとられていない。各メーカーのアーキテクチャがまだまだ成熟したMSターミナル機器が存在していない①認証に必要な操作が多すぎる②用なるネットワーク間のローミングサービスに問題が生じた（SIP（通信制御プロトコル）ベースの通信技術が未発達であるためQoSが低下する――といったもの。ただ、「こうした課題が浮上したことで、通信事業者はどのような次世代通信網を構築すべきか、認識できたのではないか」とMSF関係者はみている。こうした課題を「GMI2008」で解決するという。

「GMI2008」で検証する事項

ハードメーカーの開発がカギ
ISVの海外進出にもつながる

「次世代通信網を稼働させるためにはメトロ

ケーションサービスを受けられる」といった提案により、ユーザー企業のネットワークシステムの変革を推進する可能性は高い。

また、ISVにとっては、通信事業者が相互性のある次世代通信網を構築してSaaSなどのプラットフォームでアプリケーションサービスを提供するようになれば、どの通信事業者からでも月額課金のサービスを提供できるようになる。どんなネットワークインフラ上でもサービス提供が可能になるので、SaaSなどを通じて海外進出を図る国産ISVも出てくるのではないだろうか。

通信事業者による次世代通信網の構築は、"主役"といわれる回線を現状よりも広げることで音声や映像、データを迅速に配信可能にすることが目的だ。なかでも、法人市場では太くした回線の上で配信するアプリケーションがユーザー企業を動かすカギと通信事業者の間では認識しているようだ。

ベンダー側にとっては、こうした動きを捉えることが、ビジネスチャンスにつながるといえよう。